

韓国における女子大学の変遷と現状

—全体の動向と梨花女子大学校の拡充過程—

A Transition of Women's Universities & Colleges, and their Current Situations in the Republic of Korea :
The Entire Trend and the Developmental Process of Ewha Womans University

安東 由則
ANDO, Yoshinori

目次

1. はじめに
2. 調査手続きと資料
3. 韓国における女子大学／校の変遷
4. 現在の女子大学／校の現況とプロフィール
5. 梨花女子大学校の歴史・理念と取組み
6. おわりに

注

引用文献

参考文献

資料

1. はじめに

OECD加盟国の中で、女子大学（4年制）が存在する国は少ない。現状（2019年度）において、最も多いのが日本であり75校、全大学数の約1割を占める。さらにアメリカ合衆国の30数校、これに続くのが韓国であるが、約200の4年制大学のうち女子大学校は7校が存在するのみである。先進国において女子大学が存在する国は、主にこれらの3ヵ国に過ぎない¹。このうち、日本とアメリカの女子大学の変遷と現状については概観しており（安東2014, 2016, 2017）、本稿は韓国の女子大学校及び女子大学（以下、「女子大学／校」*と表記）を取り上げ、その第二次世界大戦（以下、WW II）後における女子大学／校の誕生と変遷、さらにはその現状について、主として統計資料を基に明らかにしようとするものである。2015年から科学研究費研究（15K04327）として取り組んだ日本、アメリカ、韓国の女子大学比較研究の一環であり、女子大学比較の基礎資料・データを提供するものである。

韓国の高等教育については、馬越（1995, 2010など）を中心に、有田（2006）など様々な研究が積み上げられてきているが、国際比較の一環として取り上げられる場合も多く、まだ十分とは言えない²。とりわけ女子高等教育に関しては、単発の論文はあるものの、ほとんどまとまった研究はなされていないのが現状である。そこで本稿では、韓国の女子高等教育、とりわけWW II後の女子大学／校の誕生と変遷（共学化など）を具体的に辿るとともに、現存する女子大学校 および女子大学のプロフィールについても提示する。ただ、本稿では韓国における女子高等教育の構造や女子大学／校に変化をもたらした政策や社会的要因（経済発展、人口、社会階層等）による分析、その影響関係の検討などを行うことはしない。どのような女子大学／校がどこに、いつ誕生し、いつ共学化したのか、その学生数はどのように変遷したのか、現在の学生数や学部数、大学院の研究科数といったデータを把握し、示すことに徹する。

2. 調査手続きと資料

筆者は先行研究として、「韓国における高等教育政策の動向と大学の現況」（安東2013）をまとめており、その中で、2012年現在の「韓国における大学リスト」を作成した。これは総合大学（＝大学校）のみを対象としたものであるが、ここでは各大学の変遷もある程度フォローしており、前身が女子大学であった大学校もある程度、把握することができていた。これを手掛かりとして、今回は女子専門大学も含めて韓国に存在した女子高等教育機関を特定することとする。

*韓国では、総合大学（University）を大学校、専門大学（Junior College）を大学と称するので、4年制の総合大学を大学校、専門大学を大学と記載する。

過去に存在した女子大学／校を特定するために、大学年鑑や大学受験に関する雑誌を所有する韓国国立中央図書館と国会図書館で資料検索を行った³。その結果、過去の資料としては『志望校선택 (選抜) 百科 '76 大学進学案内』(以下、「76 大学案内」)、『全國大學總覽 1990』(以下、「90 大学総覧」)、『2005 한국대학교육총람 (韓国大学校六総覧)』(以下、「05 大学校総覧」)などの複写を得た。図書館調査の他、大学名の特定、確認については、『韓国大学全覧』(1997)、『Higher Education in Korea』(2000)、さらに必要に応じて各大学の HP を利用した。

現在の大学／校に関するデータ取得には、KEDI (Korean Educational Development Institute) が運営する KESS (Korea Educational Statistics Service) が提供する統計データ、政府が運営する“Study in Korea”サイトの提供データ、さらに各女子大学／校の HP を利用した。梨花女子大学校に関しては、2019 年の訪問時に得たパンフレット、資料及び『The Story of Ewha : From History to Future』(2013) も参照した。

3. 韓国における女子大学／校の変遷

まず、「76 大学案内」と「90 大学総覧」に掲載されていた女子大学校・大学を確認していく⁴。前者の「76 大学案内」では、大学名、学科名などが漢字で表記されている。雑誌の前半部では、過年度大学予備考査の地域別志願者数や合格者数、さらに志望大学・学科別の平均点数が前期・後期／文科系・理科系別に詳細に示され、上位校の順位が掲載されている。後半部分は、総合大学編と単科大学編に分かれ(専門大学の記載なし)、各校の概観(歴史や理念)、主要教授、学部・学科毎の募集定員と過年度の競争率、合格最低得点、受験科目等の記載がある。全体で 200 頁弱の分量である。後者の「90 大学総覧」は、書名こそ「全國大學總覽」と漢字が使用されているが、大学名の英語表記がある他は全てハングルで書かれている。前半部では、学校種、学問分野、地域ごとに、過去 5 年間の学生数の統計などが掲載されている。大部分を占める後半では、大学校編、単科大学編、教育・特殊大学編、専門大学編に分かれて各大学が紹介されている。その内容は、大学の理念や略年表、学生数や教員数、学科ごとの教授名、学科ごとの定員や倍率、合格得点などが示されている。これは 1,000 頁に及ぶ大部なものである。

図 1 に示すように、1975 年時点での大学校数は 72 校であり、10 年前の 1965 年時点とほとんど同じ数であるのに対し、短期大学は 101 校となり 10 年前に比べ倍増した。朴正熙政権下(第四共和国)、“漢江の奇跡”と呼ばれる経済成長が続いている時期である。72 校の大学校のうち、この雑誌の総合大学編に掲載されていた女子大学校は梨花女子大学校と淑明女子大学校の 2 校のみであった(表 1)。いずれも、戦前からの長い歴史と威信を持つ名門大学校で、梨花はこの時点で 10 学部 49 学科、淑明は 6 学部 24 学科を擁していた。短期大学はこの経済成長下において急速に増加し、1975 年には 101 校となって

4年制を上回った。女子短期大学は10校を数え、全体の1割を占める。短期大学拡充の中で、教育系を中心に女子短期大学が増加していった。大学名に師範を冠していない同徳女子、釜山女子でも教育系学科は大きな割合を占める。暁星女子（大邱）、清州師範（清州）と聖心女子（春川／後に富川）、釜山女子の4校以外は、大学校も大学も全てソウルに所在している。

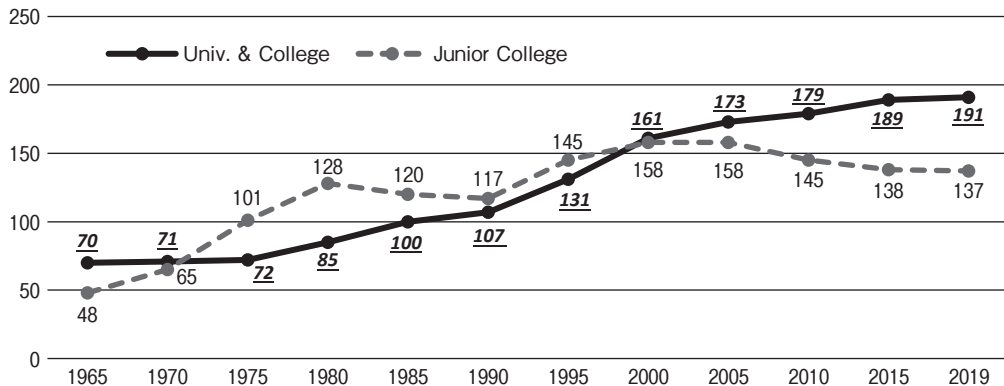


図1. 4年制大学と短大数の推移

出典：KESS (Korean Educational Statistics Service) データより作成 (<https://kess.kedi.re.kr/eng/inde>)

表1. 1975年と1989年時点の女子大学校及び女子大学

1975年時点の女子大学校・大学		1989年時点の女子大学校・女子大学		
種類	校名	種類	校名(英語表記)	学生数
総合大学	淑明女子大学校(ソウル)	→ 大学校	淑明女子大学校 Sookmyung Women's Univ.	6,238
総合大学	梨花女子大学校(ソウル)	→ 大学校	梨花女子大学校 Ewha Womans Univ.	15,340
単科大学	徳成女子大学(ソウル)	→ 大学校	徳成女子大学校 Duksung Women's Univ.	5,160
単科大学	同徳女子大学(ソウル)	→ 大学校	同徳女子大学校 Dongguk Women's Univ.	3,792
単科大学	暁星女子大学(大邱)	→ 大学校	暁星女子大学校 Hyosung Women's Univ.	8,710
単科大学	祥明女子師範大学(ソウル)	→ 大学校	祥明女子大学校 Sangmyung Women's Univ.	4,952
単科大学	ソウル女子大学(ソウル)	→ 大学校	ソウル女子大学校 Seoul Women's Univ.	3,340
単科大学	誠信女子師範大学(ソウル)	→ 大学校	誠信女子大学校 Sunshin Women's Univ.	5,762
単科大学	釜山女子大学(釜山)	→ 単科大学	釜山女子大学 Pusan Women's Univ.	4,448
単科大学	聖心女子大学(春川)	→ 単科大学	聖心女子大学 Songsim College for Women	3,575
単科大学	漢城女子大学(ソウル)	→ 専門大学	漢陽女子専門大学 Hanyang Women's Junior College(ソウル)	-
単科大学	清州女子師範大学(清州)	→ 専門大学	東萊女子専門大学 Dongnae Women's Junior College(釜山)	2,602
		→ 専門大学	東州女子専門大学 Dongju Women's Junior College(釜山)	2,662
		→ 専門大学	釜山女子専門大学 Busan Women's Junior College(釜山)	-
		→ 専門大学	*秀林女子専門大学 Shullin Women's Junior College(延日郡)	1,080
		→ 専門大学	崇義女子専門大学 Soongeui Women's Junior College(ソウル)	2,806

出典：『志望校選択百科'76 大學進學案内』(1975)

『全國大學総覧 1990』(1989) 한샘출판

* : Shullin に相当する漢字は不明。所在地は慶尚北道の연일군(延日郡)となっている。

その後、1990年までの15年の間に高等教育政策が大きく転換していく。4年制大学が増加し、総合大学化が進み、大学校の地方分散が図られるなどした(馬越 1995)。その結果、1975年に72校の大学校であったが、1990年には35校増加して107校となり、約50%の大幅増加となった(図1)。「90大学総覧」に掲載された1989年時点の女子大学/校は、大学校(4年制総合大学)が8校、単科大学(4年制単科大学)2校、専門大学(短期大学)6校である(表1)。総合大学化などを含む政府の高等教育拡大政策の影響もあり、大学校が2校から8校へと大幅に増加した。4年制の単科大学2校を含めると10校となり、4年制大学全体の約1割を女子大学/校が占めることになった。新たに総合大学となった6つの女子大学校は、75年時点での単科大学が昇格したものであり、暁星女子以外は全てソウルに所在する。地方に位置する釜山女子と聖心女子は、単科大学のままであった。共学化したのは2校で、漢城女子は共学化して93年には総合大学となり、青州女子師範は共学化後、さらに西春と改称し、92年には総合大学になっている。「90大学総覧」には短期大学(専門大学)も掲載されており、6校が確認できた。そのうち、2校がソウル、3校が釜山、1校は慶尚北道の郡部に位置する。

この「90大学総覧」には学生数も掲載されている。大学校では梨花女子が既に15,000名以上あり、他女子大学校を圧倒している。共学の総合大学である国立ソウル大学校の在学者が約21,000名、国立釜山大学校で約18,000名であるから、これらより少し小さいに過ぎない。梨花女子の次に学生数が多いのは暁星女子で学生数8,710名、さらに淑明女子の6,238名と続くが、この2校でも梨花の半分程度の規模に過ぎない。他の女子大学校は3,000～6,000名未満である。単科大学は4,000名前後、専門大学ではさらに規模は小さくなる。

表1で使用した資料と、日本語図書『韓国大学全覧』(遠藤他 1997)、*Higher Education in Korea* (Weidman, & Park, 2000)、安東の先行研究(2013)、webサイト“Study in Korea”掲載データ、各大学HPなどを参考にして、韓国に存在した女子大学/校とその変遷、現状をまとめたものが表2である。共学化した年、確認できた年度の学生数なども確認できた範囲で記した。これによると、2019年度時点で存在する女子大学校は7校、女子専門大学は7校が存在し、全大学校、全専門大学のうち、それぞれ3.7%、5.1%を占める。女子大学校の学生数が占める割合は、4年制大学生の中では3.2%、女子4年制大学生では7.6%を占める⁵。所在地を見ると、7つの女子大学校のうち、1校(光州女子)を除いて6校すべてがソウルである。専門大学でも、7校中5校がソウルに所在し、他の2校はソウル近郊の水原(京畿)と、釜山である。このように、女子大学/校はソウルに偏在していると言える。

今回の統計では、これまで韓国に女子大学/校は30校存在したことになる(但し、前身が女子神学校で大学ステイタスを持たなかった全羅北道の韓一長神を除く)。地域別で

は、ソウル 14 校と半分程度、続いて京畿、釜山の大都市部で 4 校、全羅北道で 3 校となり、これで全体の 83% 以上を占める。女子大学／校はほとんど大都市部に位置した。

30 校のうち、これまでに 16 校が共学化（合併含む）、あるいは閉学したことになるが、総合大学である女子大学校となった後に共学化してものは、祥明女子大学校（ソウル）、暁星女子大学校（大邱）、釜山女子大学校 3 校に過ぎず、いずれも 1990 年代に共学化、あるいは合併により共学化した。それ以外は、専門大学、単科大学の段階で共学化している。

共学化した年代に注目すると、初めての共学化は、1947 年に創設された中央女子大学で、わずか 1 年後の 48 年に中央大学となった事例であり、1940 年代の共学化はこの 1 校のみである。1950 年代は朝鮮戦争とその後の混乱期であるが、戦争中の 1952 年に創設された京畿道の勤華女子初級大学（後、ソウル女子初級大学）は 56 年に共学化し、63 年には明和へと改称している。1960 年代に共学化した大学も 1 校である。1955 年設立の京畿女子初級大学が 1963 年に共学化して京畿大学となり、80 年代には総合大学に昇格した。1970 年代には 3 校が共学校となっている。ソウルの 2 大学（漢城女子と首都女子師範）はそれぞれ漢城大学、世宗大学に校名を変更した。もう 1 校は全羅北道の群山大学であるが、その設立まで非常に複雑な経緯を辿る。1978 年に前身校から郡山女子初級大学となって 1 年間存在し、翌 1979 年には国の国立学校設置の改定令（大統領令第 9288 号）を受けて、新たに国立群山大学が設置された。よって、国立の女子大学として存在したものではない。1980 年代には、地方の女子専門大学が、設立後すぐに共学化した例が 2 校見られる。全羅北道の全州又石女子は設立後わずか 1 年で、釜山の東洲女子専門大学は 3 年後に共学化している。

1990 年代は共学化が相次ぐ節目の年代である。先述した総合大学となった 3 つの女子大学校（祥明、暁星、釜山）が次々と共学化し、さらに地方の 3 校（1964 年創設の聖心女子大学、1979 年創立の東萊女子専門大学、1974 年創設の紀全女子専門大学）も次々に共学校（聖心は合併）になった。1970 年以降、合計特殊出生率が低下し（1970：4.52、1980：2.82、1990：1.57）、出生者数も 1980 年以降急速に減少する（1980：約 84 万、1990：約 64 万）が、90 年代になると進学率は急速に伸び（1990：33.2%、2000：68.0%）、進学者は増加した（Kosis, Kostat, Kess. kedi など）。そのような状況でも、これまで女子大学／校として存在してきたうち 6 校が、共学化への舵を切ったのである。1998 年以降、共学化した女子大学は見られない。急速な少子化の進行、大学数の増加といった社会状況の中で、女子大学／校として生き残れたのは、人口集中が進み、学生の進学希望が強かった首都ソウルに所在する女子大学／校であり、女子大学校 7 校中 6 校、女子大学 7 校中 5 校がソウルに集中することとなった。

学生数は、約 25 年の間、漸増傾向にあるとはいえ、大きく伸ばした学校とそうではな

表2. 韓国におけるのこれまでの女子大学/校リスト

地域	大学校名(漢字)	大学校名(英語)	大学設置種別	設置者	宗教	学生数 2019	学生数 (2011年)	学生数 (2003年)	学生数 (1996年)	創立年(4年制大学)	改組等
ソウル	1 同徳女子 ◎	Dongduk Women's University	大学校	私立		6,837	7,790	6,757	6,070	1952	87 総合
	2 徳成女子 ◎	Duksung Women's University	大学校	私立		5,620	6,206	5,028	5,214	1952	88 総合
	3 梨花女子 ◎	Ewha Womans University	大学校	私立	Cp	16,088	15,732	15,037	18,000	1945	45 総合
	4 ソウル女子 ◎	Seoul Women's University	大学校	私立	Cp	7,075	8,180	6,815	4,630	1960	88 総合
	5 淑明女子 ◎	Sookmyung Women's University	大学校	私立		10,146	11,065	9,435	8,124	1948	55 総合
	6 誠信(女子) ◎	Sungshin (Women's) University	大学校	私立		8,966	10,400	8,788	6,600	1963 誠信女子ビジネス 1965 誠信女子教育(4年制)	81 総合
	7 中央	CHUNG-ANG UNIVERSITY	大学校	私立		23,667	※ 13,943	18,069	16,913	1947 中央女子大	48 現名称(共学)、53 総合
	8 漢城	Hansung University	大学校	私立		6,568	7,376	約 8,900	3,030	1972 漢城女子大	78 現名(共)、93 総合
	9 祥明	Sangmyung University	大学校	私立		12,730	12,915	※ 5,462	7,902	1983 祥明女子大	86 総合(共)、96 現名
	10 世宗	Sejong University	大学校	私立		11,799	11,195	8,896	3,981	1954 首都女子師範大	78 現名(共)、87 総合
	11 培花女子 ○	Baewha Women's University	大学	私立	Cp	2,863	3,254		(.2480)	1979 短大	98 現名
	12 漢陽女子 ○	Hanyang Women's University	大学	私立		6,559	6,788		(.6,000)	1974 職業学校	79 現名
	13 ソウル看護女子 ○	Seoul Women's College of Nursing	大学	私立		939	926		(.720)	1979 短大、	98 校名変更、2012 現名
	14 崇義女子 ○	Soongyei Women's College	大学	私立	Cp	3,362	3758		(.5,040)	1963 看護学校	78 短期大学、98 大学
仁川	15 敬仁女子 ○	Kyung-in Women's College	大学	私立	4,646	4,283		(.3,360)	1992 設立		
京畿	16 京畿	Kyonggi University	大学校	私立	13,851	14,462	13,396	9,687	1955 京畿女子初級大	63 現名(共)、84 総合	
	17 明和	Myongji University (ソウルにもキャンパス)	大学校	私立	Cp	13,701	14,472	11,447	7,992	1952 動花女子初級大、1955 ソウル女子初級大	56 共学、63 現名、83 総合
	18 韓国カソリック	The Catholic University of Korea	大学校	私立	Ca	8,181	8,303	8,450	(791女子、4,597カソ)	1964 春川に聖心女子大(Sungshin Women's)(カソリックは1959創設)	92 総合(聖心女子大学を94に合併)
19 水原女子 ○	Suwon Women's College	大学	私立	4,262	4,718		(.3,320)	69 看護学校、72 女子看護専門	98 現名		
忠北	20 西原	Seowon University	大学校	私立	6,785	6,651	6,031	4,714	1968 青州女子初級大→70 清州女子→73 青州女子師範	79 青州師範(共学) 88 現名、92 総合	
慶北	21 不明	(Shullin Women's Junior College) 1989 時点		私立				(.2,960)	1969 看護学校、→89 女子短期大学	Pohang Shullin (1995) か? 1991年から95年の間に名称変更、その後の動向不明	
大邱	22 大邱カトリック	Daegu Catholic University	大学校	私立	Ca	12,541	13,535	13,875	(.10,079) 合併後	1953 暁星女子大(Hyosan)	80 総合、94 暁星女子と大邱カトリックが合併し大邱暁星カトリック、00 現名
釜山	23 新羅	Silla University	大学校	私立	8,902	9,893	9,206	6,278	1964 釜山女子初級大、→69 釜山女子大	92 総合、98 共学、現名	
	24 釜山女子 ○	Busan Women's College	大学	私立	2,820	3,516		(.4,800)	1969 高等専門学校 79 短期	98 専門大学	
	25 東洲	Dongju College	大学	私立	3,194			(.5,200)	1978 東洲女子専門大	81 専門大学(共)	
	26 東釜山	Dong-Pusan College	大学	私立	1,335			(.3,920)	1979 東萊女子専門大(Dongnae)	96 東釜山専門大学、98 東釜山大学	
全羅北	27 群山	Kunsan National University	大学校	国立	7,131	7,612	7,234	9,365	1978 群山女子初級大学	79 現名(共)、91 総合	
	<韓一長神>	Hamil Univ. & Presbyterian theological sem.)	大学校	私立	Cp	937	1,098	1,621	860	1961 韓一女子神学校	81 全州韓一神学校(共) 95 現名
	28 又石	Woosuk University	大学校	私立	7,311	7,990		8,363	1979 全州又石女子大	80 全州又石(共)、95 現名	
29 全州紀全	Jeonju Kijeon College	大学	私立	Cp	1,765			(.3120)	1974 Kijeon Women's Junior	共学化は1996年以降	
光州	30 光州女子 ◎	Kwangju Women's University	大学校	私立	3,614	4,153	1,434	(.2720)	1992 光州女子専門大学	97 総合	

※第二キャンパスの学生数が含まれていない

注1: ◎女子大学校、○女子大学(2019年時点)、

注2: 網掛けと<>を付している韓一長神は、前身が女子大学校や女子大学ではなく、女子専門学校レベルであった学校

注3: 大学名の漢字表記については、誤っている可能性がある

出典: 2019年度の数字 <https://www.academyinfo.go.kr/pubinfo/pubinfo0910/list.do> (2020.2.20 アクセス)

1996年度の()内の数字は、Weidman & Park 2013, Higher Education in Korea. より

2011年、1996年の数字

安東由則 2013, 「韓国における高等教育政策の動向と大学の現状」『研究レポート』43号(pp.53-88)の表4.

(原資料 2011年: "College Info" Higher Education in Korea. (<http://heik.academyinfo.go.kr/main.tw>) ...2012年12月~2013.年1月アクセス、/ 1996年: 遼藤普・鄭仁豪編著1997, 『韓国大学全覧』厚有出版)

2003年の数字 한국대학교육총람 2004, 『2005 한국대학교육총람』

その他、必要に応じて各大学HPを参照。

い学校が明確である。近年、教育省による定員管理が厳しくなっている影響か、少子化の影響なのか、2011年と比べると学生数を減らした大学もある。学生数の変化で目を引くのは、淑明の伸びである。梨花の学部学生数が1989年時点と比べてもほとんど変化がないのに比して、淑明は1989年時点で梨花の4割程度、6,000名強であったものが、30年後の2019年には10,000名を超え、大学院生も増加させ梨花を追走するようになる。大学の成長戦略を大きく変えた。

4. 現在の女子大学／校の現況とプロフィール

現在（2018-2019年）における、韓国の女子大学／校をもう一度確認しておく、大専大7校、専大7校が存在する。2019年の4年制大専大（教育大専大と放送大専大を除）191校、専大137校中、それぞれ7校であるので、その割合はそれぞれ3.7%、5.1%である。日本の4年制女子大学は75校あり、全大学の約1割を女子大学が占めるのに比べて、韓国の4年制女子大専大の割合はその半分あるいはそれ以下となる。

韓国と同様、少子化により大学入学人口が減少していく日本の女子大学では、看護や教育等の実学系の学部、グローバルな学びを強調し“国際”を冠した学部、さらに近年では経営やビジネスといった学部を新設し、女子学生を惹きつけようとしている大学もある。しかしながら、その学部数はまだ少なく、平均で2.43学部、1学部と2学部の女子大学の割合は63%（いずれも2015年、私学のみ）⁶となる。一部の女子大学が学部を改変する、増やしているのに対し、大多数の女子大学は就職や学習等の支援の向上を図りつつ、これまで通り少数の学部のまま対応しようとしている。

韓国の女子大学／校の現状はどうか。女子大専大、女子大学別に、2018年における入学者、入試競争率、在学者、学部・学科数と、比較のために2011年の同じ項目を示した（表3、表4）。なお、女子大専大7校については、本稿末に「資料1」として、各大専大の歴史や理念、学長、学部、・学院構成などをまとめた簡潔にまとめた概要を掲載している。以下、それも参照しながら、学校種別に詳細を検討する。

（1）女子大専大

大専大では、2011年との比較でそれほど大きな変化は見られない。入学定員についてはどの大専大も100名程度減らされており、入学者数はそれを超えておらず、厳しい定員管理がなされていることが分かる。競争率では、ソウル所在の大専大は全て10倍を超えているが、地方に位置する光州女子大専大は5倍台とかなり低い数字になっている。受験生のソウル志向は強く、ソウル市内の大学は競争率が高くなる傾向がある。学部在学者数では、梨花と淑明が1万を超え、ソウルの女子大専大は全て6,000名以上となる。日本の女子大学で6,000名を超えるのは6校（大妻、東京家政、日本女子、椋山、同志社女

子、武庫川) 程度であるから、学生規模は日本と比べかなり大きい。ソウルの大学校と比して地方の光州女子のみ 3,500 名と小さく、日本の中規模女子大学と同程度である。学部数についても、梨花が 14 学部、淑明と誠信は 12 学部を擁し、ソウルの 6 女子大学校は全て 6 学部以上である。光州女子の場合、学科は多いものの、学部は 1 学部のみとなっている。本稿末に「資料 1」に掲載した各校のプロフィールを見ると、日本の女子大学には少ない法学や経済学といった社会科学系の学部が多い⁷。理系では従来からあった薬学の他、近年においては梨花や淑明で工学部が創設されるといった新たな動きも見られる。人文/教養系と家政系に偏っている日本の女子大学に比べ、かなり幅広い領域をカバーしている。大学院については、全ての大学校が大研究科を設置しており、梨花と淑明はそれぞれ 14 と 10 の研究科、同徳と誠信はともに 7 研究科を擁する。2019 年時点で、日本の女子大学で最も多い研究科数は 6 を上回る。最も研究科数が多い梨花の場合、大学院生数は約 7,000 名であり、学部学生の半数近くに及ぶ研究大学である。淑明も学部学生の約三分の一にあたる 3,000 名の院生を擁し、この 2 大学校は研究面においても他を圧倒する。日本で一番大学院生が多いお茶の水女子大学の院生数は約 900 名(学部学生 2,000 名)であり、規模の違いが分かる。

学長の女性比率においても日韓の女子大学で差異が大きい。韓国の女子大学校では、2019 年度、全て学長は女性になっている。2011 年時点では、3 校程度の大学校で学長は男性であったので、大きな変化が生じた。日本においては、2019 年度時点の 75 校中、女性学長が 21 校、男性学長は 54 校であり、女性比率は 28%、四分の一強であった。

表 3. 韓国における女子大学校 (University) の学生数・入試倍率等の比較 (2011 年度と 2018 年度)

大学校名(漢字)	所在地	設立年	2011 年					2018 年					学科	学部	研究科
			新入学者定員	入学者	競争率	定員	在学者	新入学者定員	入学者	競争率	定員	在学者			
梨花女子大学校	ソウル	1886	3,115	3,107	13.6	12,436	15,732	3,009	3,005	12.7	12,588	15,789	90	14	14
淑明女子大学校	ソウル	1906	2,285	2,279	17.8	9,112	11,065	2,119	2,113	10.4	9,024	10,158	59	12	10
徳誠女子大学校	ソウル	1920	1,298	1,289	8.8	5,160	6,206	1,215	1,212	15.1	5,160	5,716	44	7	3
同徳女子大学校	ソウル	1950	1,710	1,691	13.0	6,788	7,790	1,521	1,518	13.6	6,255	6,818	40	9	7
誠信女子大学校	ソウル	1936	2,219	2,213	19.3	8,873	10,400	2,063	2,062	11.4	8,396	9,124	53	12	7
ソウル女子大学校	ソウル	1961	1,740	1,732	12.4	6,920	8,180	1,594	1,591	17.5	6,419	7,187	53	6	4
光州女子大学校	光州	1992	1,005	998	5.8	4,040	4,153	896	896	5.7	3,580	3,684	20	1	3

注：設立年は "Study in Korea" に登録されているもの。

58,476

出典：2011 年 - Higher Education in Korea <http://heik.academyinfo.go.kr/main.tw> (2012 年 10 月アクセス)

2018 年 - Study in Korea

https://studyinkorea.go.kr/en/sub/overseas_info/request/universityList.do

※ academyinfo が提供している数字と異なる点があるよう <https://www.academyinfo.go.kr/popup/pubinfo1690>

(2) 女子大学

専門大学でも、入学定員はソウル看護大学(定員 168 名)を除いて、1,200 ~ 2,500 名程度であり、大学校の定員規模とそれほど差異はない。2011 年との比較では、専門学校でも定員が 1 割程度削減され、入学者の定員管理も厳しく行われていることが分かる。定員数と入学者数の数字がほぼ同数となっている。唯一定員を下回っているのは釜山女子

で、充足率は定員の91%である。水原女子も敬仁女子もソウルに所在しないものの、ソウル近郊の都市であるのに対し、釜山は大都市ではあるもののソウルとは遠距離にあることが一つの要因として考えられる。競争倍率では、ソウル看護女子大学の倍率が2011年の15倍が、2018年度には24倍へと大きく跳ね上がり、他大学には見られない高い数字になっている。この要因として考えられるのは、韓国における大卒者の就職難⁸から、特に女性には就職が有利な看護系の人気が高まっているということである。

表4. 韓国における女子大学の学生数・入試倍率等の比較（2011年度と2018年度）

大学名(漢字)	所在地	設立年	2011年					2018年					学科
			新入学者定員	入学者	競争率	定員	在学者	新入学者定員	入学者	競争率	定員	在学者	
培花女子大学	ソウル	1898	1,304	1,304	12.2	2,832	3,254	1,218	1,218	12.1	2,720	2,909	32
漢陽女子大学	* ソウル	1974	2,676	2,676	12.0	6,343	6,788	2,512	2,521	12.8	6,326	6,495	52
ソウル看護女子大学	ソウル	1954	240	240	15.0	720	926	168	168	24.0	708	933	2
崇義女子大学	ソウル	1903	1,690	1,690	9.1	3,660	3,758	1,587	1,587	10.2	3,455	3,439	31
水原女子大学	* 水原(京畿)	1969	1,905	1,905	10.9	4,344	4,718	1,680	1,680	9.3	4,289	4,341	31
敬仁女子大学	仁川	1992	1,848	1,848	16.6	4,264	4,283	1,668	1,668	13.5	4,004	4,674	48
釜山女子大学	釜山	1969	1,708	1,611	4.4	3,614	3,516	1,149	1,046	9.2	3,039	2,877	13

注1：設立年は“Study in Korea”に登録されているもの。注2：校名の右に付している[*]は女性学長を示す
 出典：2011年－Higher Education in Korea <http://heik.academyinfo.go.kr/main.tw> (2012年10月アクセス)
 2018年－Study in Korea https://studyinkorea.go.kr/en/sub/overseas_info/request/universityList.do

5. 梨花女子大学の歴史・理念と取り組み

以上、個々の大学／校の歴史・伝統や特性、特徴的な取り組みをあまり考慮せず、統計的データを拾い上げて傾向を説明してきた。以下では、韓国で最も伝統のある女子大学校で、教育や研究の質・量ともに世界の女子大学の中でも飛び抜けている梨花女子大学校を取り上げ、女子校としての歴史と具体的な取り組みについて概観していく。韓国の女子大学の典型例ではないが、研究や教育、国際化、社会貢献などあらゆる面で、他の女子大学には見られない先駆的な取り組みを行い、周囲に影響を与えてきた梨花の例から学ぶことは多い⁹。

とはいえ、長い伝統と数々の実績をもつ梨花女子大学校について、本稿では詳細な検討をすることはできない。よって、本節では簡単な年表(表5)を基にこれまでの主要な出来事をピックアップした後、学部や研究科の設置に焦点を当て、大学運営や学生募集においてどのような戦略が進められていったかを確認する(表6)。

〈1〉梨花女子大学校の創設からの歩み

梨花女子の歴史は、アメリカのメソジスト・キリスト教会が1886年に女子教育のために創設した小さな学堂から始まる。これが韓国(朝鮮半島)における女性のための初の近代教育とされる。翌年には国王高宗より“梨花”名を与えられ、今日まで引き継がれている。1910年、日韓併合条約が締結されたこの年には、高等教育レベルの教育課程を提供

するようになり、これが今日の梨花女子大学の源流である。1925年には Ewha College となって、初めての女子高等教育機関として認められ、3年後には専門学校 (Professional School) としての認可を得た。日中戦争が始まり、世界状況も緊迫していく中、キリスト教団への排斥圧力が高まり、アメリカから派遣されていた教団関係者も帰国を余儀なくされた。その結果、1939年に初めて韓国人女性 Kim, Helen が学長¹⁰に就任した。彼女は教会から派遣されてコロンビア大学で博士号を取っており、博士号を獲得した最初の韓国人女性でもある。これ以降、韓国人が学長に就任するようになり、創設以来、全て学長は女性である。Kim が日中戦争、第二次世界大戦、さらには朝鮮戦争 (1950-53) を経て 1961年まで、混乱した社会情勢の中、22年の長きにわたり梨花を指揮し、発展の確固たる礎を築いた。第二次世界大戦後の 1946年には、ソウル大学校より先に大学校 (総合大学) として認可がなされた。初の女子大学校であり、1948年設立の淑明女子大学が 1955年に総合大学へ昇格するまで、梨花が唯一の女子大学校であった。1946年に大学校として認められる際、これまでの女子高等教育機関にはほとんどなかった社会科学や自然科学、医学系の分野も置かれた。朝鮮戦争が始まる 1950年には大学院を創設し、1963年には初の医学博士を2名に授与した。

表5には記載していないが、1970年代は梨花の共学化が継続的に取り上げられ、議論された (Ewha Archives 2013、以下の内容はこれによる)。1971年3月に朝鮮日報が梨花での共学化議論をすっぱ抜き、これをきっかけに学生や卒業生らが強く抗議するなど騒ぎとなった。この時の学長 Kim, Helen はレポーターの質問に“韓国で性差別がなくなり、議会で男女が半々になれば (共学を考える)” (104頁) と答えたとのことである。しかし共学化の声はなかなか止まず、70年代はくすぶり続けた。1980年代になって、“梨花は韓国の女性教育を促進するという使命をもって創設され、女性にとっての聖域 (Sanctuary) であり続けるため、そのリーダーシップを発揮するのだと宣言し (105頁)、共学化問題に決着をつけた。

1970年代に注目すべきは、カリキュラムに“女性学コース”を設け、さらに“韓国女性学研究所”を設立したことである。ウーマンリブ運動が盛んになった時代であるが、民主化される以前の政治体制であり、政治的圧力が強い中、女性の地位を高めるリーダーとの自負をもって、果敢に女性学を推進する足掛かりをつくったのである。

1980年代になると、第二次大戦や朝鮮戦争で教育機会を奪われた大人たちのために、大学において生涯教育が開始され、継続されていく。さらに 1986年の創設 100周年の折には、世界クラスの大学への発展が打ち出され、その準備が進められるようになる。韓国政府が“BK (Brain Korea) 21”と称して、世界水準の大学院育成、人材養成を打ち出したのが 1999年であるから、早い段階で国際化に取り組み始めた。1973年段階で 8,000名ほどの学生数 (Ewha Archives 2013, 135頁) であったものが、1989年の段階では

表5. 梨花女子大学の略年表

1886.5	Mary F. Scranton (初代学長)・・・アメリカのメソジスト監督教会により女子のための学堂を創設 韓国初の女性のための近代教育機関
1887	Scranton は教会からの援助を受け、女性専用病院「保救女館 (Boguyegwan)」設立 国王高宗から“梨花”の名を授けられる
1890	Louisa C. Rothweiler (第2代学長)
1892	Josephine O. Paine (第3代学長)
1907	Lulu E. Frey (第3代学長)
1910	女性に高等教育への扉を開く大学課程 (college course) を提供 (15名の学生で始まり、1914年に卒業)
1914	幼稚園が設立される
1921	A. Jeannette Walter (第5代学長)
1922	Alice R. Appenzeller (第6代学長)
1925	Ewha College に昇格、韓国女性の初めての高等教育機関
1928	専門学校許可 (Ewha Womans Professional School)
1933	財団 (The foundation) が Ewha Haktang (梨花学堂) と Ewha Hakwon (梨花学院) に分離
1939	Helen Kim (第7代学長) 初の韓国人のトップに
1943	Helen Kim が 財団 Ewha Haktang (梨花学堂) のトップに
1946	梨花女子大学校 (Ewha Womans University) の設立許可 (文部省認可の初の大学校) 人文科学、社会科学、自然科学、医学、芸術、体育などの専攻分野
1950	韓国初の女子の大学院創設
1951	朝鮮戦争により釜山に避難
1955	小学校設立 (Ewha Elementary School)、 中学校設立 (Ewha Middle School)
1958	高等学校設立 (Ewha High School)
1961	Kim Ok gill (第8代学長)
1963	初の博士学位 (医学) を Ban Heon-gyeong と Kim Hye-chang に授与
1977	韓国初の女性学コースと韓国女性研究所 (Women's Institute) を設置
1979	Chung li-sook (第9代学長)
1984	大学に生涯教育のセクションを設ける (School of Continuing Education)
1986	創立 100 周年記念 (ワールドクラスの大学への発展の契機)
1990	Yoon Hoo Jung (第10代学長) 初の選挙
1995	国による総合大学に対する大学認証評価でトップとなる
1996	Chang Sang (第11代学長)、世界初の女子大の工学部 (engineering college) を創設
2001	韓国初の国際研究部門 (Division of International Studies) を創設し、英語で全ての課程を英語で提供
2002	Shin In-ryung (第12代学長)
2006	Lee Bae Yong (第13代学長) Ewha Global Partnership Program 提供 (韓国初の、発展途上国の女性に対する学位授与プログラム)
2007	Ewha-KOICA (the Korea International Cooperation Agency) Master's Program 始める 発展途上国の女性研究者や公務員に対して提供される修士課程の集中プログラム 創設者 (Scranton) の考え引き継ぎ、韓国初の自己選択制専攻 (self-designed major) = Scranton College
2008	The Ewha Campus Complex (ECC) の建設 (韓国最大の環境に優しい地下キャンパス施設) Global hub for women's education and intellectual exchange 計画 (2010- 現在)
2010	Kim Sunuk (第14代学長)
2011	Ewha-Solvay collaboration agreement (提携協定) Ewha と企業 (多国籍の化学メーカー Solvay) が 提携し、R&D (Research and development) Center の世界的拠点を
2012	Center of women's global education、Global center for basic science research を創設 the Ewha Global Empowerment Program 開始 (発展途上国の公的、非政府セクターの女性リーダー育成)
2014	Choi Kyung-hee (第15代学長)
2015	Residential College program 開始 (全新生が1学期間一緒に住み、勉強する環境を創設)
2016	Kim Heisook (第16代学長) E-House and Ottogi Global House の建設 (2018年時点で、およそ4,300人の学生がキャンパスに住む)
2019	the Research Cooperation Building の建設。 世界的な科学研究の基盤であり、量子ナノサイエンスセンターとして始まる

出典：Ewha Omans University HP 掲載の“Ewha's History”

Ewha Archives 2013. Ewha Womans Univ. 2018. *Together to Tomorrow, Ewha* (Leaflet) など

15,000名を超えており、1970-80年代を通じて大学規模は拡大していった。

1990年代になり、女子大学として初めて工学部を創設した(96年)。その後、アメリカのSmith Collegeが1999年、淑明女子は2016年に工学部を設けた。女子学生へのSTEM分野への進学が奨励されるようになるはるか以前、特に女性の進出が少なかった工学部門の将来的な重要性を認識し、その教育に取り組み始めたのである。

2000年代に入ると、国際化の取り組みが一層促進される。先に述べた1999年に開始された政府主導のプロジェクト(BK21)による後押しもあった。2001年には全ての授業を英語で提供するプログラムを設け、2006年には発展途上国の女性に対する学位授与プログラム“Global Partnership Program”を始めた。その翌年には、発展途上国の公務員や研究者を対象とする修士課程の集中プログラムも開始する。さらにグローバル化の一環として、アメリカのリベラルアーツ・カレッジのような英語授業を多く取り入れ、自己選択性の専攻を設けた学部を新設し、創設者の名を冠したScranton Collegeと名付た。韓国人学生が国際舞台で対応できるようにするとともに、外国人学生も呼び込もうとしたのである(Kim 2015 / Ewha HP)。続いて2012年には、発展途上国の公的、非政府セクターの女性リーダー育成を目指した“Global Empowerment Program”を設けるなど、矢継ぎ早に世界の女性のためのリーダーシップ育成に取り組んでいった。また、自国の公務員や企業に勤める女性に向けて、リーダーシップの開発プログラムを提供している(『研究レポート』本号掲載のChun教授へのインタビュー参照)。

梨花女子大学が、女性への教育を発展させ、女性が自信を持ち社会で活動するための場(“聖域”)、つまりは女性をエンパワーし続ける(リーダーシップ教育等)場であることを梨花のミッションとして保持し、そのための取り組みを、学生はもとより、国内の社会人、さらに近年においては、発展途上国の女性を対象に、精力的に展開している。

(2) 学部・大学院の拡充の歴史

一般に女子大学では、学部や大学院での専攻が、教養や人文科学、家政系に偏っており、社会科学や自然科学(一部、教養教育では教授された)、工学といった分野の専攻が置かれぬのが一般的であった。これに対して梨花は、社会科学や自然科学、医学系の専攻が早い段階から置かれ、バランスが取れた学問構成を実現してきた。どのようにして教育研究分野が拡大し、今日のような学問構成になったのかを確認する(表6)。

戦前においては、教養教育(地理学、天文学、数学、心理学などを含む)が中心に行われていた。戦後、韓国を支配したアメリカの教育政策により、日本同様、アメリカのキリスト教団が創設した梨花女子大学は、1946年6月、ソウル大学などに先行していち早く総合大学としての設立許可を得た。この時、リベラルアーツ(文学、家政、教育、身体教育の各学科)、美術(音楽、美術の各学科)、医療[Healing Arts](薬学、医学の各学

科)の3学部が設置された(Ewha Archives 2013,100頁)。この時、梨花では、“その当時、女子には不適当だと思われていた医学や法学、自然科学、ジャーナリズムといった学問を大胆に導入しよう”と議論された¹¹。創設時には医療(Healing Arts)学部が設置され、医学と薬学の学科が置かれ、医学は翌年には医学部として独立している。医療系学部の整備は早く、朝鮮戦争休戦後すぐの1954年に薬学が、55年には看護科学が学部として独立した。社会科学系の学問については、学部としての独立は少し遅れるが、創設段階よりリベラルアーツ(人文)学部社会科学系を含む様々な学科が置かれていた。法学の場合、学科が設置されたのは1951年であるが、学部となったのは1996年とかなり遅くなる。社会科学部も同様である。法学部と社会科学部が独立した年に、工学部が新たに設けられた。情報関連の学科はあったものの、女子大学校における工学部の創設は大きな

表 6-1. 梨花女子大学校の学部設置年表

学部 (College)	英語名	設立年	備考
(人文学)		1925	人文学分野 (Humanities Division)
リベラルアーツ学部	College of Liberal Arts (最も伝統的で土台となる学部。サイエンス、リベラルアーツなど何度か改称)	1946	(文学、家政学、教育、身体教育から構成)
		1951	人文学部 (The College of Humanities) 創設
		1982	リベラルアーツに改称
芸術学部	College of Art & Design	1946	The College of Fine Arts (Music, Fine Arts)
医学部	College of Medicine	(1946)	the College of Healing Arts (Pharmacy, Medicine)
		1947	医学部設置
		2007	医科大学院 (School of Medicine) へ
看護学部	College of Nursing	1955	医学部に看護学科 (初の大学でのプログラム)
		1996	看護科学部
		2016	看護学部
薬学部	College of Pharmacy	1946	the College of Healing Arts (Pharmacy, Medicine)
音楽学部	College of Music	1954	薬学部薬学科に
教育学部	College of Education	1960	1925年に音楽学科として創設
経営大学	College of Business Administration	1951	2年制の幼児教育プログラム (1915)、リベラルアーツから発展
		1963	ビジネス学部商業学科 (Department of Commerce) 設置
		1967	現名に改称
自然科学部	Natural Sciences	1951	自然科学科設置
		1982	リベラルアーツ&サイエンス学部が自然科学とリベラルアーツに分割される
社会科学部	College of Social Sciences	1996	(政治科学&外交、公共管理学、図書館学、マスコミ、社会学、社会福祉から構成)
工学部	ELTEC College of Engineering	1996	初の女性のみの工学部
法学部	College of Law School of Law	(1950)	法学科の創設
		1996	法学部の創設
		2009	法科大学院へ
スクラントン学部 (自由専攻学部)	Scranton College	2007	学際的アプローチから多様な課題に対応できる創造的で自律的な専門家が求められており、それに応える人材養成が目的。関心に応じて自由に選択できるシステムが特徴
HOKMA一般教育学部	The HOKMA College of General Education	2015	未来志向の一般教育を提供するという目標 多様な科目、関心、方法を学び、変化し続ける社会のニーズに合ったものを提供できる実践的なリーダー養成 HOKMAは "wisdom", "intelligence", "discernment", and "varied knowledge." を表すヘブライ語の頭文字
科学・産業融合	College of Science and Industry Convergence	2016	多目的の学際的教育モデルを提供する

出典：梨花女子大学校 HP (<http://www.ewha.ac.kr/ewhaen/academics/liberal-arts.do#menu>)

Ewha Womans University 2013. *The Story of Ewha: From History to Future*. Ewha Womans University Press

表 6-2. 梨花女子大学の学部設置年表

大学院	Graduate School	設立年
一般大学院	The Graduate School	1950
教育学大学院	Education	1967
デザイン大学院	Design	1982
社会福祉学大学院	Social Welfare	1993
国際研究大学院	International Studies (GSIS)	1997
神学大学院	Theology	1998
政策科学大学院	Policy Sciences	1998
舞台芸術大学院	Performing Arts	2000
臨床保健科学大学院	Clinical & Public Health Convergence	2000
臨床歯科学大学院	Clinical Dentistry	2003
経営専門職大学院	Business (MBA)	2006
医学専門職大学院	Medicine	2007
翻訳通訳大学院	Translation and Interpretation	2007
外国語教育特殊大学院	Teaching Foreign Languages	2009
法学専門職大学院	Law	2009

チャレンジであった。筆者が2019年3月に行ったChun, JongSerl教授へのインタビューによると、学生の志望傾向からではなく、社会や時代が変化し、第4次産業革命と呼ばれるようになり、科学と技術の重要性が一層高まってきたこと、そして今後、女性人材が一番必要とされる部門が科学・技術分野だと考え、時代を先取りする形でこれを創設したとことであった¹²。今、梨花が最も力入れている分野の一つである。

2000年代での新たな動きとして、従来のように一つの学問を専攻し追求すると学びではなく、変化が激しく、より複雑で多領域にまたがった社会的な問題や課題に対応できる力を身につけられる学びを提供しようという学部が創られるようになる。自身の選択により、あるいは問題関心に沿って、複数の学問領域を学び、多領域を融合する形で問題解決を図る、創造的な方法や考え方を提供できる人材、リーダーシップが取れる人材を育成しようとする試みである。先述のように、2007年には創設者の名前を冠したScranton学部、2015年には英知 (Wisdom)、知性 (Intelligence)、判断力 (Discernment)、多様な知識 (Varied Knowledge) を意味するヘブライ語の頭文字からとった“HOKMA”学部を、さらに2016年には科学・産業融合学部を矢継ぎ早に創設していった。複雑な社会ニーズに対応できる、広範な知識とコミュニケーション力、リーダーシップを持った人材養成を、外国人留学生も取り込んで行おうとしている。

大学院については、新教育制度下で学生が卒業する1950年に一般大学院が最も早くつくられたが、その後の設置は停滞する。1967年に教育学大学院、さらに15年後の1982年にデザインの大学院が創られたが、大学設立後の50年で3大学院ができたに過ぎなかった。それが1990年代からは研究科創設ラッシュとなる。特に1997年の経済危機以降、政府は急速に国際化を推し進め、BK21プロジェクトでも大学院の集中育成政策を打ち出すなど、アメリカのような大学院における専門教育の充実を図っていった。そうした社会の流れの中で、次々に新たな大学院研究科が創られていった。2006年～2009年に

は経営学や医学、法学といった専門職大学院が整備された。

(3) 梨花の現状：二つの視点から

学部数と大学院の研究科ともに人文系、社会科学系、医療系、工学系と満遍なく揃い、学部生は15,000名、大学院生も7,000名近くおり、梨花が自らを指して言う通り、“世界中のどこにもない女子大学”である。社会ニーズを先取りし、工学部や自由選択学部を創り、発展途上国や国内の社会人女性のためにリーダーシップのプログラムを積極的に展開している。将来を見据えて、先手先手を打っており、優秀な学生も集まっているように思える。果たして梨花女子は万全なのだろうか。これを検討するためには様々な視点があるが、ここでは国内における大学のランキングという一つの指標、もう一つは近年、梨花を襲った事件を取り上げて考えてみる。

表7のようなデータがある。これは1975年の大学入試予備考査（前期）における平均点の上位校を、いくつかの学問分野で示したものである。当時、浪人が多く出る厳しい受験競争下であるが、梨花を受験した学生の平均点は非常に高い。ソウル大学校とは少し差があるものの、2位～5位にランクされている分野が数多くある。理系でも、数学と生物学は2位、薬学3位、医学予科は5位である。表には掲載していないが、仏文、独文では2位、芸術関連の領域では1位も多くある。当時の梨花女子大学校のレベルの高さ、人気を示すデータである。

表7. 1975年大学入試予備考査（前期）平均点の上位校と点数

	1位	2位	3位	4位	5位	
国語国文学	ソウル 266.13	梨花 237.1	釜山 232.45	延世 227.51	慶北 222.05	
英語英文学	ソウル 266.13	釜山 249.52	延世 242.51	梨花 237.1	西江 236.5	
法律学	ソウル 274.35	高麗 248.02	釜山 241.3	延世 236.41	慶北 233.13	(9位 梨花) 213.89
新聞放送	梨花 237.1	延世 230.96	高麗 227.82	西江 220.56	中央 205.53	
外国語教育英語	ソウル 258.03	釜山 249.65	慶北 243.07	梨花 233.33	公州師範 225.15	
数学	ソウル 259.81	梨花 222.24	延世 220.96	西江 218.45	釜山 216.97	
物理学	ソウル 259.81	延世 228.16	西江 223.7	梨花 222.24	釜山 219.16	
生物学	延世 222.6	梨花 222.24	西江 219.67	慶北 213.96	釜山 212.9	
医学予科	ソウル 265.57	慶北 248.01	釜山 245.62	延世 243.46	梨花 242.75	
薬学	ソウル 259.81	釜山 247.76	梨花 236.77	中央 209.57	—	

出典：『志望校選択百科 '76 大進學案内』（1975）、12-19 頁

表8にはTHE (Times Higher Education) が提供している、2020年と2015年時点での韓国国内ランキングを示した。このランキングの作成仕方、調査内容には疑問符がつけられる点多々あるが(荻谷 2017)、教育や研究の水準を示す一つの客観的指標として用いることとする。2015年におけるランキングは7位タイであったが、2020年のランキングでは13位に落ちている。1975年時点との違いは、1981年のKAIST(当時、大学院大学)の創設を皮切りに、1993年にGIST、2009年にはUNISTというように、国が科学技術立国を目指して予算を投じ、理系の国立大学を作っていたということである。SKY(ソウル、高麗、延世)のトップ3は別格として、こうした新しい大学校が上位にきた。1986年創設の浦項工科大学校は、世界有数の鉄鋼会社・浦項総合製鉄(現POSCO)が出資し、科学技術分野の世界水準の人材養成を目指し、世界中から教員を招き、英語で授業を行うなど、設備を含め当時、世界の最先端の大学校とも言われた。この他、世宗大学校、中央大学校の飛躍も注目する必要がある。この両私立大学校はかつて女子大学であり、梨花と比べてはるかに下位に位置づけられていたものが共学化し、その後、他大学を吸収合併する、理工系学部の強化を図るなどして急速に伸びてきた¹³。今日においても、伝統や威信、名声、人々の評判において梨花女子大学校は突出した女子大学校であるが、新たな勢力からの追い上げが激しい。日本の固定された大学ランキングとは大いに異なる。それ故、梨花は共学校に伍して新たなチャレンジを続けていかざるを得ない。

表8. Times Higher Educationによる韓国内のランキング(2020年)

順位	得点	大学名	設置	2014-15 順位
1	68.0	ソウル大学校	国立	1
2	63.0	成均館大学校	私立	4
3	61.3	KAIST (Korea Advanced Institute of Science & Technology) 1981 創設	国立	2
4	57.4	浦項工科大学校 1986 創設	私立	3
5	55.2	高麗大学校	私立	5
6	53.9	延世大学校	私立	6
7	50.1-53.7	UNIST (Ulsan Institute of Science & Technology) 蔚山科学技術 2009 創設	国立	
8	44.5-46.8	慶熙大学校	私立	
9	42.4-44.4	漢陽大学校	私立	7
10	38.8-42.3	GIST (Gwangju Institute of Science & Technology) 光州科学技術 1993 創設	国立	
10	38.8-42.3	世宗大学校	私立	
12	35.3-38.7	中央大学校	私立	
13	28.3-35.2	梨花女子大学校	私立	7
13	28.3-35.2	建国大学校	私立	

出典：THE(www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/2020/world-ranking#!//)
(www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/2015/world-ranking#!//)

取り上げるもう一つは、2016年10月に起きた梨花女子大学校総長の辞任とそれに至る背景である。2016年7月末、国が推し進める社会人対象の生涯教育単科大学支援事業への参入を表明し、未来 LiFFE 学部を創設してニューメディア産業、美容やウェルネス、ハイブリッド・デザインなどの専攻を用意して、学士学位を授与しようとするものであった。比較的容易に梨花女子大学校卒という名門の学位が取得できること、既存の入学定員を削って設けるものであることから、国からの支援金を目当てに学位を売ろうとするものだ、あるいは「梨花卒」の価値が下がるとして学生・卒業生らが猛反発をして座り込みを開始したのである。座り込んだ学生たちの排除に総長は警察が投入して鎮静化をしようとしたが、更に反発を招くこととなり、8月の卒業式では「総長辞めろ」コールが響くことになった。さらに拍車を掛けたのが、9月になって明らかになった朴槿恵大統領（当時）の親友である崔順実の娘を不正入学させ、単位の不正取得に大学側が関与していたことである。政治の大学への介入、それを許した大学側の意図（補助金ねらい）などへの反発、疑惑が過熱し、教職員を含めた反対運動が大きくなった。これにより、崔京姫学長は10月19日に辞任を表明したのである。梨花の歴史の中で大きな汚点となった¹⁴。

この基底には、韓国でも大学の運営において国からの補助金が大きな財源になっているという事実がある。何か新たな試みを行おうとするとき、当然のことながら、国からの補助金獲得は不可欠である。梨花は生涯教育単科大学支援事業のみならず、様々な補助事業に応募し、獲得していた（ユ 2016.8.2）。騒動の少し前、聯合ニュースは2016年7月11日付の記事で、梨花女子がアメリカと中国に分校を設立する考えを明らかにしたと伝えている（王冊寧 2016）¹⁵。韓国の少子化が急速な進行する将来に対する長期展望の下での計画であろうが、資金は大きなネックになったと思われる。上記の事件との関わりは不明とはいえ、大学受験者が大幅に落ち込んでいく中、現在の学生規模、教育・研究を高い水準で維持をしようとするほど、どうしてもより多くの資金の獲得が必要となってくる。梨花の焦りがなかったとは言えないのではないか。

梨花女子の創立理念と伝統、女性のリーダーであらんとする自負をもって、工学部の創設、自国のみならず発展途上国の女性の地位向上に資する取り組み等を積極果敢に行ってきた。日本の女子大学では到底できそうもないことを実現させ、女性のリーダーシップ教育の取り組みについても一歩も二歩も先んじており、そこから学ぶところは多い。その梨花は、自国の構造的な問題と格闘しているとも言えるだろう。

6. おわりに

本稿では、第二次大戦後における韓国の女子大学／校の創設とその後の変遷を数量的に捉え、韓国を代表する伝統校である梨花女子大学校についてはその発展の歴史を簡単にまとめた。筆者にとってこれは韓国の女子大学／校についての最初の研究であり、今後の研

究のための基礎作業として、不十分ながら全体を概観したにすぎない。また、収集した資料やデータを十分にまとめたとも言い難い。教育政策、韓国における社会構造やジェンダー意識との関連、個々の女子大学／校の特性などの観点からの研究は今後の課題であり、焦点を絞り取り組める課題から継続し研究を実施していく。

今回、本稿を作成するために様々に資料を収集し目を通していく過程で、考えたことの一つを述べて終わりとする。本科研費研究が始まった後、二つの女子大学校、徳成(Duksung)女子大学校と誠信(Sungshin)女子大学校について、共学化されるとの新聞報道がされた。徳成については2015年、誠信は2018年のことであった(Jhoo,D.2015、Kim,H. 2018)。徳成は当時、国の設定基準に達しない(underperforming)下位15%の大学校として教育省からの補助金がカットされたことを受け、当時の学長が共学化を示唆した¹⁶。誠信は、当時新たに就任した学長が、“2017年に人口の半分である女性のみを対象とする女子大には将来性はなく、女子の就職は一般に不利なので、大学の就職率が低くなってしなう”などとして、2018年の年頭のあいさつで共学化を打ち出した¹⁷。1990年代に女子大学の共学化が相次ぎ、1998年以降、女子大学／校の共学化は見られなかったが、その動きが再燃の気配を見せたのである。共学化を主張した学長はいずれも男性であった。学生や卒業生らの反対もあって、共学化は取り消され、2大学校とも学長は女性に交代した。その結果、韓国の7女子大学校の学長は全て女性となった。

女性学長になったからと言って共学化の議論が消え去ってしまうことはないだろう。前節の梨花の事例でも述べたが、韓国社会が、大学／校が直面している大きな問題・課題の一つは少子化である。これまでも大学受験の年齢人口は減少してきたが、進学率の急速な伸びで多くの受験生を得ることができた(1990年：33.2%、2000年：68.0%、2005年：82.1%)。しかし大学進学率も8割程度まで伸びて頭打ちとなり、少子化は一層急速に進んでいる。

後掲の図2は1999年から2019年までの出生者数の推移である。2年前に60万人以上いた受験年齢の学生は、その後の5年間で20万人、30%も一気に減少する。今から3年後の現実である。18年後の受験人口は30万、わずか20年弱で半分以下にまで落ち込むのである。

これに対処するために、共学大学、女子大学ともに、それぞれの特性、強みを考慮しつつ、様々に戦略を練っている。本稿では紹介できなかったが、就職に有利な学部・学科への再編成を積極的に行う大学もある。女子大学校が理系学部を充実させようとする背景には、文系に比べ理系の就職がよいという側面があるからだ¹⁸。また、海外からの留学生を積極的に呼び込む、今後大学進学が伸びる発展途上国から社会人や学生を受入れてそのパイプを太くする、留学生が英語で学べる学部を用意するといった取組みを行う大学校もある¹⁹。海外キャンパスの創設や海外の大学との連携強化を考える大学校もある。ソウルに

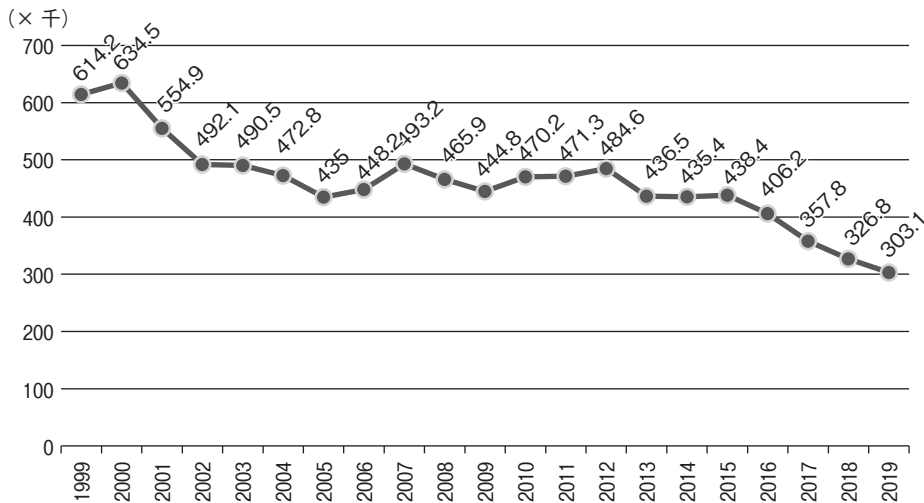


図2. 韓国の出生数推移

出典：Statistics Korea HP (<http://kostat.go.kr/portal/eng/index.action>)

所在する大学校と地方の大学校、資金力のある大学校とそうでない大学校で大きな差異も生じる。

いずれにせよ、韓国的女子大学／校が直面している姿は、近い将来、日本の女子大学が直面する姿でもある。少子化という社会構造的な問題に、対峙しなければならない。留学生の増大、海外キャンパス、就職支援、就職を見越した学部・学科構成（就職に有利な専門職養成学科、理系の学科）、快適な学習環境や研究環境の整備、女性をエンパワメントする種々のプログラムが打ち出され、実行されている。誠信の前学長の言を借りるまでもなく、当然のことながら、女子大学／校の対象は共学に比べて半分となり、それが大学経営上決定的な要因であると考えるならば共学化すればよい。受験対象者は半分であっても、女子学生に何が提供できるか、提供しなければならないか、女子大学としての理念／使命をもう一度自らに問いかけることの必要性を再認識した。そうした理念／使命なしには女子大学を継続することは難しいであろう。

注

- 1) Renn, K. (2014) 及び Purcell, F.B., Helms, R.M., & Rumbley, L. (2005) などの書物が、世界的女子大学を扱っている。ここに挙げた3カ国の他、イギリス、カナダ、オーストラリア、イタリアにも存在するのであるが、それらは大学内にある女子の residential college との位置づけが多い。
- 2) 例えば、藤井光昭・柳井晴夫・荒井克弘編（2002）、南部広孝（2016）、北村友人・杉村美紀編（2016）、嶋内佐絵（2016）などがある。
遠藤誉・鄭仁豪編（1997）『韓国大学全覧』では、大学プロフィールや入試や大学制度など韓

国の高等教育全般がまとめられている。

3) 初めての韓国訪問であり、韓国語が堪能ではなく、韓国における大学受験関連資料の知識及び下調べが十分ではなかったため、検索には手間取り、適当な資料・データが入手できたとはいいいがたい。

4) ここで女子大学校、女子大学としているのは大学名に女子 (Women's、Woman など) を冠している大学であり、女子を冠しない女子大学を見落としている可能性はある。

また、このサイトの大学サーチの大学分類は「University」「Junior College」「Graduate School」「Etc.」の4つとなっている。本稿で“女子大学”と記しているのは「Junior College」分類の大学であり、一般には「専門大学」と訳されている。この専門大学分類であっても、“University”と称している大学も少なくない。

“Study in Korea”HP (<http://www.studyinkorea.go.kr/en/main.doacademy>)

5) 2019年の4年制大学生数は2,001,643名、女子の4年制大学生数は841,050名であった。7女子専門大学の学生数の占有率を、全ての大学での学生数が把握できている2018年度で見ると、全専門大学生(659,232名)中で3.9%、全女子専門大学生(273,328名)では9.4%を占める。(<https://kess.kedi.re.kr/eng/stats/>)

6) 武庫川女子大学教育研究所 HP「女子大学調査研究」(<https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoken/jyoshidai.html>)

7) 下記の表9に示すように、韓国では女子学生が社会科学系の専攻を取る割合が非常に高くなっている。1989年時点では社会科学系の学部在籍者の男女比率は、男性83.3%に対して女性は16.3%であったものが、2019年には男性52.8%に対して女性は47.2%とほぼ同じ割合になっている。女性在学生の中で社会科学系学部在籍者比率を計算すると、1989年時点で17%であったものが29%に伸び、逆に人文・語学系の割合は26%から18%へと減少した。この他の専攻分野の男女比で女性比率が伸びた分野は、医薬系、農振水産系、工学系であり、女子大学校の学部設置にもこうした女子学生の専攻選択の動向が反映されているようである。韓国の大学では、学部改変は頻繁になされる。

表9. 1985年と1989年の女子学生割合(上段)、1989年と2019専攻別女子割合(中段・下段)

	大学校			教育大学			専門大学			合計		
	総数	女子	割合 (%)	総数	女子	割合 (%)	総数	女子	割合 (%)	総数	女子	割合 (%)
1989年	1,020,771	284,493	27.9	17,182	10,674	62.1	291,041	107,514	36.9	1,328,994	402,681	30.3
1989年	合計	語学	人文学	社会科学	理学	農林水	工学	医薬	教育	芸術・体育		
総人数	1,006,022	120,177	37,196	285,803	111,604	62,069	227,554	39,937	71,826	64,605		
女子	279,061	59,151	13,116	47,784	48,034	11,831	12,839	14,083	40,321	37,334		
割合 (%)	27.7	49.2	35.3	16.7	43.0	19.1	5.6	35.3	56.1	57.8		
2019年	合計	人文学	社会科学	自然科学	農林水獣バ	工学	医薬	教育	芸術・体育	家政 (Life Science)		
総人数	2,315,279	309,197	635,699	52,940	135,289	599,299	145,687	137,082	236,139	63,947		
女子	1,036,536	184,617	300,196	17,932	57,890	118,505	90,008	95,310	130,387	41,691		
割合 (%)	44.8	59.7	47.2	33.9	42.8	19.8	61.8	69.5	55.2	65.2		

注: 2019年の統計では、自然科学の中に農林水産、バイオ、環境学、獣医学、家政学 (Life Science) を包摂していたので分割した。

1989年の学問分類の詳細は不明であり、2019年度のものとも必ずしも一致するものではない。

出典: 1985年、1989年のデータ『全国大学総覧 1990』(1989) 한샘출판, 74頁

2019年のデータ KESS (Korean Educational Statistics Service) <https://kess.kedi.re.kr/eng/index> (2020.3.10 アクセス)

- 8) 日本経済新聞の記事「韓国で『留日』対策日本語学校」(2019年12月3日)によると、韓国の一般大学の平均就職率はここ5年の平均が60%台で推移している。2019年4月時点の日本の就職率は97.6%であるから、大きな差異がある。中央日報日本語版(2019年1月22日web版)「韓国名門大学卒業生も難しい就職…大学街に迫る『就職寒波』」によると、4年間(2014-17)で韓国教育開発院の就職統計調査資料を分析したところ、4年制一般大学の平均就職率は64.5%から62.6%に下がったと伝えている。
- 9) もう一校、梨花女子に次ぐ伝統と威信を誇り、近年、教育と研究の双方で拡大と充実を積極的に図っている淑明女子がある。これに関しては紙幅の都合上、「資料2」に大学の概要を示す。アメリカのキリスト教団によって設立された梨花に対し、この女子大学校は朝鮮王朝高宗の後宮、純献の支援により1906年に創設された。1909年には淑明へと名称を変更し、その名称が今日まで続いている。戦後の1955年、梨花に続いて2校目の女子総合大学となった。近年では、2010年に予備役将校訓練課程(ROTC…Reserve Officers' Training Corps)を女子大として初めて導入する、2016年に工学部を創設する、創造支援センターを設けて起業やキャリアを支援する(日本経済新聞2016.12.21)、未来型リーダーシップの教育・支援など、積極的な経営展開を行っている。現在、12学部10研究科を擁し、学部生は10,000名、大学院生は3,000名を超えるまでに拡大した。梨花と並んで淑明出身の女子アナウンサーも多く、女子学生にとっては憧れの女子大学校ということである(安東・韓国人留学生2020)。
- 10) 表では初代のScrantonより学長(President)としている。正式には、制度に基づく公的な大学校となる1946年以降の学長を指すものであるが、梨花HPの年表には学校を開いたScrantonを初代学長として、以後、学長という名称で記載してあるので、ここではそれに倣った記載を行っている。
- 11) 梨花女子大学校HPに掲載されている、医学部の歩みの解説で記述されている(<http://www.ewha.ac.kr/ewhaen/academics/medicine.do>)。他のページでも同様の説明がなされている。
- 12) 筆者が『研究レポート』50号(本号)に掲載している、Chung, JongSerl教授へのインタビュー報告に詳細が記されている。
- 13) the QSの2020年のランキング(学部レベル)において、梨花は中央や世宗より上位にランクされるが、総合では10位に位置する。THEと大きな差異はない。
(www.topuniversities.com/universities/level/undergrad/country/south-korea)
- 14) この事件についての記述は、次のようなネット資料を参照した。
- ・‘Class of 2016 raises voice against President at graduation’. *Ewha Voice*. 2016.9.12.
 - ・‘Protest against LiFE College continues throughout summer’. *Ewha Voice*. 2016.8.29.
 - ・‘Protest at Ewha Womans University escalates,’ *The Korea Herald*. 2016.8.1.
 - ・ユ・ホンジュ「出口のない梨花女子大学事態、卒業生まで乗り出し『卒業証書返却デモ』」『毎日経済』(2016.8.2.)

- ・玉置直司「韓国大統領周辺の醜聞、発火点は名門・梨花女子大 疑惑の女性の娘の入試疑惑で設立以来総長も辞任」『JBpress』(2016.11.1.)
 - ・吉野太一郎「韓国の名門女子大、卒業式で「総長辞める」の大合唱 背景に根強い学歴社会」『The Huffington Post』(2016.8.29.)
 - ・「韓国梨花女子大 7千人が大集会 総長辞任を求め学内を占拠」『前進』2778号2面(2016.9.8.)
 - ・吉野太一郎「裏口入学に『親を憎め』『金も実力』…韓国の若者を怒らせた『影の実力者』の娘とは」『The Huffington Post』(2016.11.19.)
 - ・桜井紀雄「専攻すら知らずに名門大で単位取得 崔順実被告の娘が韓国の人々に放ったあきれた弁明とは」『産経ニュース』(2017.6.8.)
- 15) これに先立つ2016年5月30日頃、聯合ニュースや中国の環球網は、アメリカや中国で韓国学やデザインなどの専門課程を有する分校設置の計画を進めていること、崔総長が既に中国を訪問し、近々アメリカを訪問する計画であることを伝えている。*Record China* 2016年6月3日 (<https://www.recordchina.co.jp/b140077-s0-c30-d0035.html>)
- 16) Jhoo, Dong-chan. 2015.3.4. Duksung Women's Univ. plans to become coeducational. *The Korea Times*. (http://www.koreatimes.co.kr/www/nation/2018/11/113_174578.html)
- 17) Kim, Hyun-bin 2018.1.23. Sungshin students protest school's co-ed plan. *The Korea Times*. (https://www.koreatimes.co.kr/www/nation/2020/02/113_242932.html)
- 18) 「就職のために自分の適性とは関係なく工学系を選ぶ学生が急増している。…2014年下半期の新卒採用で、営業や総務といった職種でも理工学系の卒業生しか採用せず、文系の卒業生からはエントリーシートすら受け付けない会社が続出…。サムスングループは新卒採用の85%を理工学系の卒業生にした。…韓国教育開発院が2月初めに公開した「2014年専攻別大学生就職率」によると、工学系を専攻した卒業生の就職率は65.6%。人文社会系を専攻した学生の就職率は45.5%で、工学系の方が20%ポイント^(ママ)も高かった。」(趙章恩 2015.2.18.)
- 19) 梨花はより多くの留学生を迎え入れ、より快適な学習環境を保障し、学生間の交流を図るため、学生寮の大幅な増改築を行っている(E-HouseやOttogi Global Houseの建設)。また、アメリカ型のリベラルアーツの学部を創り、複数専攻、英語授業も取り入れている。

引用文献

- 安東由則 2013. 「韓国における高等教育政策の動向と大学の現状」『研究レポート』(武庫川女子大学教育研究所) 43号, 53-88頁
- 安東由則 2014. 「アメリカにおける女子大学のプロフィールと現状」『研究レポート』(武庫川女子大学教育研究所) 44号, 59-88頁
- 安東由則 2016. 「アメリカにおける女子大学の動向(1)」『研究レポート』(武庫川女子大学教育研

究所) 46号, 83-102頁

安東由則 2017. 「日本における女子大学の70年の変遷」『研究レポート』(武庫川女子大学教育研究所) 47号, 1-31頁

安東由則・韓国人留学生 2020. 「韓国の教育事情と日韓の女子大学に関する聞き取り調査」安東由則編『2015-19年度科学研究費助成事業・基盤研究(C) 課題番号15K04327「女子大学の存立意義とサバイバルストラテジー」研究成果報告書』, 233-255頁

有田信 2006. 『韓国の教育と社会階層：学歴社会への実証的アプローチ』東京大学出版会

遠藤誉・鄭仁豪編(駐日大韓民国大使館教育官室監修) 1997. 『韓国大学全覧』厚有出版

Ewha Archives 2013. *The Story of Ewha*, Ewha Womans University Press.

尹敬勲 2013. 『韓国の大学リストラと教育改革：韓国の「大学調整」政策の展開と課題』Book&Hope.

Jhoo, Dong-chan. 2015.3.4. Duksung Women's Univ. plans to become coeducational, *The Korea Times*.

荻谷剛彦 2017. 『オックスフォードからの警鐘：グローバル時代の大学論』中央公論新社

Kim, Stephanie K. 2015. Redefining Internationalization: Reverse Student Mobility in South Korea. In C. S. Collins and D. Neubauer (Eds.), *Redefining Asia Pacific Higher Education in Contexts of Globalization: Private Markets and the Public Good*, New York: Palgrave Macmillan. pp. 41-56.

馬越徹 2010. 『韓国大学改革のダイナミズム：ワールドクラスへの挑戦』東信堂

馬越徹 1995. 『韓国近代大学の成立と展開：大学モデルの伝播研究』名古屋大学出版会

Renn, K. 2014. *Women's Colleges & Universities in a Global Context*, Johns Hopkins University Press.

Purcell, F.B., Helms, R.M., & Rumbley, L. 2005. *Women's Universities and Colleges: An International Handbook*, Sense Publishers.

Weidman, J.C. & Park, N. (eds.) 2000. *Higher Education in Korea: Tradition and Adaptation*. Falmer Press. (2003 edition, printed by Routledge)

「働き続ける未来 韓国女性を支援：淑明女子大学長に聞く AI時代に備え工学部を新設 出産後の復帰 卒業生に再教育」『日本経済新聞』(2016年12月21日朝刊)

「韓国で『留日』対策日本語学校」『日本経済新聞』(2019年12月3日朝刊)

・韓国語文献

『志望校선택(選択)百科'76大学進学案内』1975.

『全國大學總覽1990』1989.

『2005 한국대학교육총람(韓国大学校六総覧)』2004.

・ネット資料(女子大学/校及び使用した共学大学のHPは割愛)

- 趙章恩 2015.2.18. 韓国就職事情、文系大学生に就職口なし…高校生の7割が就職のため理系を選択」『日経ビジネス』〈<http://business.nikkeibp.co.jp/article/world/20150217/277607/?P=1>〉
2015年3月アクセス
- Korean Educational Statistic Service 〈<https://kess.kedi.re.kr/eng/index>〉
- KOrean Statistical Information Service 〈<http://kosis.kr/eng/>〉
- Higher Education in Korea 〈<https://www.academyinfo.go.kr/popup/pubinfo1690>〉
- Higher Education in Korea 〈<http://heik.academyinfo.go.kr/main.tw>〉 (…上記に変更された)
- 桜井紀雄 2017.6.8. 「専攻すら知らずに名門大で単位取得 崔順実被告の娘が韓国の人々に放ったあきれた弁明とは」『産経ニュース』〈<https://www.sankei.com/premium/news/170608/prm1706080006-n5.html>〉
- QS World University Rankings HP 〈<https://www.topuniversities.com/universities/country/south-korea>〉
- Statistics Korea 〈<http://kostat.go.kr/portal/eng/index.action>〉
- Study in Korea 〈<https://studyinkorea.go.kr/en/>〉
- 玉置直司 「韓国大統領周辺の醜聞、発火点は名門・梨花女子大 疑惑の女性の娘の入試疑惑で設立以来総長も辞任」『JBpress』(2016.11.1.) 〈<https://jbpress.ismedia.jp/articles/-/48276>〉
- Times Higher Education : World University Rankings 2020 〈<https://www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/2020/world-ranking#!/page/>〉
- 王珊寧 2016.7.18. 「韓国の大学、年々下がる入学率に海外進出を積極化」『新華網』〈http://jp.xinhuanet.com/2016-07/18/c_135520540.htm〉
- 吉野太一郎 2016.8.29. 「韓国の名門女子大、卒業式で「総長辞めろ」の大合唱 背景に根強い学歴社会」『The Huffington Post』〈https://www.huffingtonpost.jp/2016/08/28/korea-ehwa-womens-univ_n_11756596.html〉
- 吉野太一郎 2016.11.19. 「裏口入学に『親を憎め』『金も実力』…韓国の若者を怒らせた『影の実力者』の娘とは」『The Huffington Post』〈https://www.huffingtonpost.jp/2016/11/17/jeong-yura_n_13039350.html〉
- ユ・ジョンホ 2016.8.2. 「出口のない梨花女子大学事態、卒業生まで乗り出し『卒業証書返却デモ』」『毎日経済』 〈<http://mk.co.kr/>〉
- ‘Class of 2016 raises voice against President at graduation’. *Ewha Voice*. (2016.9.12.) 〈<http://evoice.ewha.ac.kr/news/articleView.html?idxno=4902>〉
- ‘Protest against LiFE College continues throughout summer’. *Ewha Voice*. (2016.8.29.) 〈<http://evoice.ewha.ac.kr/news/articleView.html?idxno=4870>〉
- ‘Protest at Ewha Womans University escalates,’ *The Korea Herald*. (2016.8.1.) 〈<http://www.koreaherald.com/view.php?ud=20160801000724>〉

「韓国名門大学卒業生も難しい就職…大学街に迫る『就職寒波』」『中央日報』（日本語 web 版 2019 年 1 月 22 日）〈<https://japanese.joins.com/JArticle/249399?>〉

「韓国梨花女子大 7 千人が大集会 総長辞任を求め学内を占拠」『前進』2778 号 2 面（2016.9.8）
〈<http://www.zenshin.org/zh/f-kiji/2016/09/f27780205.html>〉

※ 2016 年以降、収集しデータ・資料取得。2020 年 3 月初旬時点でアクセス可を確認

参考文献

藤井光昭・柳井晴夫・荒井克弘編 2002.『大学入試における総合試験の国際比較：我が国の入試改善に向けて』多賀出版

南部広孝 2016.『東アジアの大学・大学院入学者選抜制度の比較：中国・台湾・韓国・日本』東信堂

北村友人・杉村美紀編 2016.『激動するアジアの大学改革：グローバル人材を育成するために（増補版）』上智大学出版

嶋内佐絵 2016.『東アジアにおける留学生移動のパラダイム転換：大学国際化と「英語プログラム」の日韓比較』東信堂

付記

本稿は、安東由則による 2015－2019 年度科学研究費助成事業（基盤研究 C）「女子大学の存立意義とサバイバルストラテジー：日本・アメリカ・韓国の国際比較」（課題番号 15K04327）研究成果の一部である。

資料 1. 2018年現在の4年制女子大学の概要

校名	学校小史
梨花女子大学校 Ewha Womans University 이화여자대학교 創設者：Methodist Episcopal Church 所在地：Seoul（ソウル） website： http://www.ewha.ac.kr/	1886 梨花学堂（Ewha Haktang）創設 Methodist Episcopal Church により 1887 李朝高宗 gave the school its name. "Ewha" means "Pear Blossoms" 1925 梨花女子専門学校（Ewha College） 1946 梨花女子大学校（Ewha Womans University） 現在の状況 学部・院 14 学部（リベラル、社会、自然、工、音楽、芸術、教育、経営、科学産業融合、医、看護、薬、Scranton、HOKMA） 15 研究科（一般、教育、デザイン、社会福祉、国際、神学。政策科学、舞踊、保健、通訳、外語教育、経営、法、歯、医） 学生 15,789（学部）、6,989（大学院） 学長 Kim, Heisook（女性）第16代 金恵淑 2017- 理念 キリスト教の精神で、女性教育の機会を広げ、女性のリーダーシップを育て、平等で調和のとれた社会の実現を目指す
校名	学校小史
淑明女子大学校 Sookmyung Women's University 숙명여자대학교 創設者：高宗の後宮（皇貴妃） 宗教なし 所在地：Seoul（ソウル） website： http://sookmyung.ac.kr/	1906 明新女学校（Myungsin Girl's School） 1909 淑明女学校（Sookmyung Women's School） 1938 淑明女子専門学校（Sookmyung Women's Junior College） 1948 淑明女子大学（Sookmyung Women's College） 1955 淑明女子大学校（Sookmyung Women's University） 現在の状況 学部・院 12 学部（文、理、工、生命、社会、法、経商、音楽、薬、美、教養） （※2016年には工学を学部へ創設） 10 研究科（一般、国際、文化芸術、心理療法、人材開発、音楽療法、政策、リモート、教育、経営） 学生 10,158（学部）、3,283（大学院） 学長 JungAi Kang（女性）第19代（1981年、10代学長より女性学長） 理念 韓国の皇族により、女性に高等教育を提供し、女性リーダーを育成することで国に貢献するために創設された 質の高い教育を通して、女性の教育の国際的なハブに成長する 特徴 2010年に女子大で初めて軍士官養成課程（ROTC）を設ける
校名	学校小史
誠信（女子）大学校 Sungshin (Women's) University 성신여자대학교 ※ HP では "Women's" がつけられているが、政府運営の "Study in Korea" サイトで Women's なしでの校名表記がなされている。 創設者：Dr. Lee Sook-chong 리운정（女性）カソリックの記念館で、60名の生徒で開学（宗教系ではない） 所在地：Seoul（ソウル） website： https://www.sungshin.ac.kr/sites/main_kor/main.jsp	1936 誠信女学校（Sungshin Girl's School） 1963 誠信女子ビジネス大学（Sungshin Women's Junior Business College） 1965 誠信女子教育大学（Sungshin Women's Teachers College）（4年制のCollege） 1972 大学院設置 1979 誠信女子大学（Sungshin Women's College） 1981 誠信女子大学校（Sungshin Women's University） 2018 誠信大学校 現在の状況 学部・院 12 学部（人文、社会、法、自然、教育、美術、音楽、教養、知識サービス工、看護、健康、文化芸術） 7 研究科（一般、人文、芸術身体、教育、デザイン芸術、文化産業、福祉） 学生 9,124（学部）、1,053（大学院） 学長 Yang, Bo Kyung（女性）第11代（2018-） 理念 教育のみが韓国の人民を国家として独立させるという信念のもと、教育機関を創設した 校是 誠信（embrace sincerity and faith）、知新（strive for new knowledge）、自立（act independently） 特長 誠信は幼稚園、小学校、女子中学校、女子高等学校、大学とからなる

校名	学校小史
ソウル女子大学校 Seoul Women's University 서울여자대학교 創設者：the Presbyterian Church of Korea Dr. Whang-kyung Koh 所在地：Seoul (ソウル) website： http://www.swu.ac.kr/index.do	1958 ソウル女子大学 (Seoul Women's College) (57 創設) 1961 ソウル女子大学校 (Seoul Women's University) 1979 大学院創設 (入学は 1980) 現在の状況 学部・院 6 学部 (人文, 社会, 自然, 未来産業学際, 芸術デザイン, 自律電子工?) 4 研究科 (一般、教育、福祉、治療技術) 学生 7,187 (学部)、304 (大学院) 学長 Chun, Hei-Jung (女性) 第 7 代 理念 キリスト教精神のもと、智と美德と技能 (Knowledge, Virtue, and Expertise) を兼ね備えた女性指導者をつくり上げる

校名	学校小史
徳成女子大学校 Duksung Women's University 덕성여자대학교 創設者：Ms. Cha Mirisa, the independence fighter, women's rights activist 所在地：Seoul (ソウル) website： http://www.duksung.ac.kr/main.do	1920 Geunhwa School (Academy) 設立 Geunhwa = 無窮花 (むくげ) 1938 強制改名 徳成学校 (Duksung School) (後、Duksung Woman's Vocational School) 1945 Duksung Girls' Junior High and Senior High School 1950 徳成女子大学 (Duksung Woman's Junior College) 1952 4 年制の大学 (College) 1955 夜間と昼間に分ける 1961 大学院 (2 つの修士課程) 1987 徳誠女子大学校 (Duksung Women's University) 現在の状況 学部・院 7 学部 (教養、社会、自然、薬学、科学技術、アートデザイン、教職) 3 研究科 (一般、教育、文化産業) 学生 5,716 (学部)、422 (大学院) 学長 강수경 (女性) 11 代学長 2019- (英語表記 Kang So-kyung?) 特徴・理念 世界を創造する実務能力の高い女性リーダーを育てる大学

校名	学校小史
同徳女子大学校 Dongduk Women's University 동덕여자대학교 創設者：Dr. Cho Dong-Shik, also known as Choon-Kang (男性) (春江) 趙東植 所在地：Seoul (ソウル) website： https://www.dongduk.ac.kr/sugang.html https://ipsi.dongduk.ac.kr/ipsi/main.do	1908 東媛女子義塾寄宿学校 (Dongwon Girls Boarding School) 1950 同徳女子大学 (Dongduk Women's College 4 年制) 1980 大学院創設 1987 同徳女子大学校 (Dongduk Women's University) 現在の状況 学部・院 9 学部 (教養、人文、社会、自然、情報、薬、芸術、デザイン、舞台芸術) 7 研究科 (一般、デザイン、教育、舞台芸術、保健、芸術療法、ファッション) 学生 6,818 (学部)、302 (大学院) 学長 Kim, Myung-Ae (女性) (9 代学長、初の女性学長) 特徴 実用性をもった学問的伝統を維持していく 他 幼稚園、中学校、高等学校を擁する

校名	学校小史
光州女子大学校 KWANG JU WOMENS UNIVERSITY 광주여자대학교 創設者：呉致錫 オ・チソク (男性) 所在地：Kwangju (光州) website： https://www.kwu.ac.kr/ https://ipsi.kwu.ac.kr/mod/page/view.do?MID=IPSI_P07010101	1992 光州女子専門大学 1997 光州女子大学開校 (Kwangju Women's University) 2001 大学院設置許可 現在の状況 学部・院 1 学部、3 研究科 (総合、教育、社会開発) 学生 3,684 (学部)、243 (大学院) 学長 Lee Seon-Jae (女性) 特長 雇用されることを中心とした教育と人間の尊厳プログラムを実践することに最善を尽くす。これにより、産業界が望むように訓練された卒業生の雇用率を高めていく。 学生が高い徳と能力、礼儀作法をもって振る舞うという精神を学ばせる

出典・参照：各大学 HP、"Study in Korea" HP、遠藤誉・鄭仁豪編 (1997) 『韓国大学全覧』厚有出版

資料 2. 淑明女子大学の略歴

1906	純献（皇后）の支援で明新女学校設立、Mrs. Lee, Jeong Sook 初代校長 *
1908	新明高等女学校
1909	淑明高等女学校
1911	淑明女子普通高等学校
1935	Odashogo（小田省吾）校長
1938	淑明女子専門学校 家政学、芸術、教育の学科が認可
1939	Odashogo（小田省吾）専門学校の初代校長
1945	Lim, Sookjae, 任淑宰（法学博士），校長就任（後、大学の初代学長就任）
1948	淑明女子大学に昇格。人文学部門（国語国文学、英語英文学、芸術・音楽）、科学部門（科学と家政学）
1953	人文部門に政治経済学科、科学部門に薬学科を置く
1955	大学校に昇格。人文学部（国語国文学、英語英文学、教育、家政学）、政治経済学部（政治学、経済学）、音楽学部、薬学部設置。大学院修士課程には国語国文学、英語英文学、家政学
1956	中等学校教員養成機関に（240名）
1958	Kim, Duheon,（文学博士），第2代学長
1959	人文学部に歴史学科、政治経済学部に商学科／音楽と薬学の修士課程開設
1960	Kim, Dujong,（医学博士）. 第3代学長
1962	Lee, Neungwoo,（文学博士），学長代理
1963	国語国文学、英語英文学、家政学、薬学の博士課程開設／教育、政治外交、経済の修士課程開設 Kim Sun-Shik,（経済学博士），第4代学長
1965	Yun Tae-rim, 第5代学長
1966	教育と政治外交の博士課程、歴史の修士課程
1969	Lee In-gi,（文学博士），第6代学長 / 家政学が人文から独立し学部に
1971	運動科学、経営学の修士課程
1973	Kim Gyeongsu,（法学博士），第7代学長 工業芸術学部創設、仏語・仏文学、応用工芸の修士課程
1976	貿易の修士課程
1977	Suh, Myong-won,（教育学博士），第8代学長 Cha Rak-hun,（法学博士），第9代学長
1978	独語独文学、仏語・仏文学の修士課程と博士課程／児童福祉、音楽、芸術関連の修士課程
1980	生物学、数学の修士課程、経済学、物理学、化学、製薬の博士課程
1981	Kim Ok-ryol,（政治学博士），第10代学長* <以後、女性学長>
1982	政治学部と経済学部と法学部に分離
1983	図書館学と製薬の修士課程、独語・独文学の博士課程／産業研究科経営と産業芸術の修士課程
1984	数学と生物学の博士課程
1985	Kim Ok-ryol,（政治学博士），第11代学長*
1986	コンピュータ学が修士コースに
1987	（修士課程の定員を510、博士課程を100）
1988	生涯学習センター設立／ダンスの修士課程、芸術の歴史を博士課程に／50周年記念式典
1990	Chung Kyu-sun,（薬学博士）第12代学長*
1992	経営と貿易コースの夜間部門開設／コンピュータの博士課程／（修士定員576、博士定員150）
1994	Lee Kyung-sook,（政治学博士），第13代学長* 独語、仏語、経済などの夜間部を開設（修士定員606、博士定員160）
1995	100周年に向けた総合発展プランを発表し、“第二の創立”を宣言法と行政の修士、貿易の博士課程（修士定員676、博士定員170）
1996	国際サービスと音楽療法の大学院／アジア太平洋女性情報ネットワークセンター開設
1997	情報コミュニケーションと伝統文化の大学院開設 TESOL（Teaching English to Speakers of Other Languages）コース導入
1998	Lee Kyung-Sook,（政治学博士），第14代学長*、サイバー教育センター/Venture Business Center創設。
1999	TESOLの修士課程創設
2000	伝統韓国食研究所創設、マルチメディア、アニメーション専攻創設

2002	Lee Kyung-Sook, (政治学博士), 第 15 代学長* / 遠隔教育 (Distance Learning) 大学院
2004	産学協同 (Industry-Academic Cooperation) 財団の創設、健康家族サポートセンター設立
2005	サービスマネジメント専攻、リーダーシップとリズム教育 (eurythmics) 専攻 創設
2006	Lee Kyung-Sook, (政治学博士), 第 16 代学長* / 創立 100 周年
2007	S リーダーシップ 創造的な知識 (Spirit)、未来型技術 (Skill)、奉仕的な精神 (Service)、健全な心身 (Strength) の 4 つの「S」で始まる特性を基にした未来志向型リーダーシップ
2008	Han Yeong-sil, (理学博士), 第 17 代学長* / ダンス専攻を博士課程に設ける
2009	国際協力専攻、Entrepreneurship (起業) 専攻/薬学 6 年制 the Academy-R&D-Industry Cooperation course 設置/韓国文化研究所設立
2010	Entrepreneurship Center (企業支援センター) 設置 (グローバルサービス研究科の関連施設) ROTC (Reserve Officers' Training Corps…予備役将校訓練課程) 設置 “Sookmyung Blue Ribbon Project” を宣言 (長期の競争力促進プロジェクト)
2011	ホテル・レストランマネジメントの修士課程
2012	総合人文科学研究所を新設し、一般的な大学院博士課程では文化観光部を新設 Sunhye Hwang, (教育言語学博士), 第 18 代学長*
2013	一般大学院修士・博士課程生命システム学科を新設。(2013 年度)
2015	工科大学を新設、大学院修士課程と博士課程で IT 工学科、化学生命工学科を新設
2016	SOOKMYUNG WOMEN'S UNIVERSITY Technology Holdings Co. 創設 JungAi Kang 第 19 代学長*

出典：淑明女子大学校 HP

注 *：女性

<http://e.sookmyung.ac.kr/sookmyungen/1322/subview.do>

<http://www.sookmyung.ac.kr/sookmyungen/1322/subview.do>

<http://www.sookmyung.ac.kr/sookmyungkr/921/subview.do>

<http://www.sookmyung.ac.kr/sookmyungkr/917/subview.do>

http://e.sookmyung.ac.kr/sites/sookmyungkr/down/pr/2018_Sookmyung_Brochure_E.pdf

Renaissance Sookmyung 2017 (panphlet)